第46回　2014（平成26）年
社 会 保 険 労 務 士 試 験

ＴＡＣ社会保険労務士講座

本試験分析

この資料は、第46回本試験実施後、受験者の皆様から寄せられた復元解答を元に、択一式及び選択式試験の平均点、得点分布等を算出し、分析結果を記載したものです。

本試験問題の「解答・解説」「科目別のコメント」「択一式問題の難易度一覧表」等につきましては本試験終了後に実施した**解答解説会時配布資料**又はＴＡＣ社会保険労務士講座の**情報誌『合格への招待』**2014年臨時増刊号に掲載しております。

途中の分析過程を省き、総合ラインのみ確認したい方は、P.7へ

※2014（平成26）年「本試験解答分析サービス」を利用された皆様へ
画面上に表示されている点数・利用者数等と、当資料で用いている点数・利用者数等は異なっています。これは、「A, A, A, A…」「1, 1, 1, 1…」といった本試験において実際に解答されているものとは異なると予想されるものや免除科目のある方等をデータ上から除き再集計しているためです。あらかじめご了承下さい。

この社会保険労務士本試験解答分析サービス結果の著作権はＴＡＣ（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。

第46回社会保険労務士試験　分析資料

択一式試験

●ＴＡＣ本試験解答分析サービスより

年	基安	災徴	雇徴	常識	健保	厚年	国年	計	合格点	合格率
2014(H26)	**6.6**	**6.5**	**6.2**	**4.9**	**7.0**	**6.9**	**6.2**	**44.3**	**？**	**？**
2013(H25)	7.1	6.6	6.4	6.3	5.9	6.3	5.8	44.4	46	5.4
2012(H24)	6.6	7.1	5.5	5.6	7.8	6.9	6.1	45.5	46	7.0
2011(H23)	6.9	7.4	6.4	5.5	7.2	5.9	5.6	44.8	46	7.2
2010(H22)	7.6	7.0	7.6	5.3	6.6	6.1	6.6	46.7	48	8.6
2009(H21)	6.8	6.1	6.2	5.8	6.3	6.6	7.1	44.9	44	7.6
2008(H20)	7.0	6.6	7.1	7.3	5.3	5.8	7.3	46.4	48	7.5
2007(H19)	5.4	6.4	7.2	6.7	6.4	6.7	6.1	44.9	44	10.6
2006(H18)	**4.7**	7.1	6.9	**5.4**	5.5	4.4	6.7	40.8	41	8.5
2005(H17)	5.6	6.1	6.9	5.1	5.6	6.0	6.1	41.5	43	8.9

※白抜き数字は、３点可とされた科目

※2006年　健保問8-BD、厚年問3-BDは本試験実施後、複数正答として採点・集計→本試験結果発表後の正答（健保問8-B、厚年問3-D）を反映し再集計

※2006年　厚年問8は本試験実施後、全員正解として採点・集計→本試験結果発表後の正答（厚年問8-B）を反映し再集計

※2009年　国年問8は正答なし。全員加点。

※2010年　社一問7、健保問2、国年問10は正答なし。全員加点。厚年問10-AB、国年問７-CEは複数正答

※2011年　災徴問８-CEは複数正答

■□■今年度の択一式試験の特徴及び従来との比較■□■

◇択一式平均点は昨年とほぼ同水準で、2007(H19)、2009（H21)、2011(H23)に近い水準であった。

◇基本問題の占める割合（58%→60%)、応用問題の占める割合（33%→34%）は若干ではあるが上昇し、難問の出題比率は昨年よりも低下している(9%→6%)。昨年に続き、以前よりも応用問題の占める比率が上昇していることから平均点も過去５年間で最も低い数字となっている。

◇昨年までの組み合わせ問題に加えて、個数問題の出題が見られた。

◇最も平均点の高い科目は、［健保］の7.0点、最も低いものは［常識］の4.9点であった。

この社会保険労務士本試験解答分析サービス結果の著作権はＴＡＣ（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。

●点数の分布割合等　（単位：%）

割合	基安	災徴	雇徴	常識	健保	厚年	国年
10点	1.7	1.8	2.9	0.2	8.4	5.9	2.4
９点	9.2	9.0	10.2	1.2	17.2	16.0	8.3
８点	18.6	19.7	16.2	4.0	21.5	21.5	16.5
７点	25.2	25.2	19.5	9.8	17.1	19.8	19.7
６点	21.7	19.5	17.7	20.0	14.3	14.9	20.1
５点	13.2	12.1	11.6	25.5	8.9	9.6	15.0
４点	6.7	7.0	9.5	19.6	6.2	5.9	9.1
３点	2.7	4.1	5.9	10.6	3.8	4.0	4.9
２点	0.7	1.3	4.1	6.1	1.8	1.5	2.9
１点	0.3	0.2	2.0	2.3	0.7	1.0	1.0
０点	0.0	0.1	0.4	0.7	0.2	0.0	0.2

３点以下割合	3.7	5.7	12.3	19.7	6.5	6.5	8.9

この社会保険労務士本試験解答分析サービス結果の著作権はＴＡＣ（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。

選択式試験

●ＴＡＣ本試験解答分析サービスより

年	基安	労災	雇用	労一	社一	健保	厚年	国年	計	合格点	合格率
2014(H26)	**4.1**	**4.2**	**4.3**	**3.0**	**4.0**	**3.6**	**4.1**	**4.8**	**32.2**	？	？
2013(H25)	3.9	**1.9**	**3.6**	3.3	**1.9**	**2.1**	3.8	4.4	24.9	21	5.4
2012(H24)	4.0	4.8	3.8	4.1	2.7	3.6	**2.9**	**4.3**	30.2	26	7.0
2011(H23)	**3.4**	**2.4**	4.3	2.8	**2.6**	4.2	**3.7**	**3.5**	26.9	23	7.2
2010(H22)	3.7	4.0	4.5	3.6	**3.0**	**3.5**	**2.8**	**2.3**	27.3	23	8.6
2009(H21)	**2.7**	**3.4**	4.5	2.9	4.0	4.7	**4.1**	4.4	30.7	25	7.6
2008(H20)	3.6	3.6	4.3	3.3	4.3	**2.2**	**3.2**	**3.1**	27.7	25	7.5
2007(H19)	4.3	4.0	4.7	3.2	3.6	4.7	4.7	3.8	32.9	28	10.6
2006(H18)	**3.7**	**2.5**	**4.0**	4.3	**2.5**	4.1	**3.6**	4.2	28.9	22	8.5
2005(H17)	**2.4**	3.9	4.6	3.5	4.3	4.7	3.6	4.0	31.0	28	8.9

※白抜き数字は２点（2004年及び2008年の健保、2010年の国年、2014の社一は１点）が認められた科目

※2006年社一…当初「正答なし」で採点・集計→本試験結果発表後の正答を反映し再集計

■□■今年度の選択式試験の特徴及び従来との比較■□■

◇選択式の平均点は32.2点となり、過去10年間でみると2007(H19)に次ぐ高い基準となった。

◇平均点が３点を下回る科目がないのも2007(H19)以来である。

◇最も点数が伸びていなかった［労一］でも平均点は3.0点となっている。

●点数の分布割合等　（単位：%）

割合	基安	労災	雇用	労一	社一	健保	厚年	国年
5点	40.6	57.9	66.3	5.7	39.3	34.0	51.8	82.8
4点	38.1	22.2	17.2	24.9	32.5	29.0	23.6	13.2
3点	16.0	10.5	4.7	43.2	19.5	16.8	12.1	2.5
2点	4.5	5.9	5.4	19.9	7.0	10.5	6.1	0.8
1点	0.7	2.5	4.8	5.3	1.5	7.1	4.9	0.6
0点	0.1	1.0	1.5	0.9	0.2	2.6	1.5	0.1

２点以下割合	5.3	9.4	11.8	26.1	8.6	20.2	12.5	1.5

この社会保険労務士本試験解答分析サービス結果の著作権はＴＡＣ（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。

【総合得点の検証】

●択一式の総合得点

択一式の総合得点は、44.3点と昨年とほぼ同水準で、2007(H19)、2009（H21)、2011(H23)に近い水準であった。

ほぼ同水準であった昨年の合格基準点が46点であったことを考えると、昨年の46点と同水準となる可能性もある。しかし、ここ数年は合格率を低めに抑える傾向にあること、また、本年とほぼ同水準の平均点であり、合格基準点が44点とされた2007（H19）の合格率が10.6%とここ10年で最も高いものであったことも加味すると、選択式のでき如何ではこれよりも引き上げられる可能性がある。昨年の5.4%のように極端に低い合格率とはせず、７～８％台の合格率とするのであっても、昨年並みの46点を下回ることはないと考えられる。

●選択式の総合得点

次に選択式の総合得点について触れることとする。

過去のデータをみると「28点」を基本とし、補正を行う場合にはそれを下回る基準としている可能性が高い。

＜参考：選択式総得点が28点を下回った年＞

	解答分析の平均点	本試験結果
2006（H18）	28.9点	22点
2008（H20）	27.7点	25点
2009（H21）	30.7点	25点
2010（H22）	27.3点	23点
2011（H23）	26.9点	23点
2012（H24）	30.2点	26点
2013（H25）	24.9点	21点

2009(H21)は「25点」が合格基準点とされ、[基安][労災][厚年]において２点補正が行われた年である。逆に、2005(H17)のように［基安］で２点補正が行われたにもかかわらず合格基準点は28点とされた年もあるが、全体的にみれば、補正科目が複数になる場合は合格基準点が28点より引き下げられる可能性が高くなる。

本年は、補正がまったく行われず合格基準点が28点とされた2007(H19)に次ぐ高い平均点であり、すべての科目で平均点が３点以上となっている点も同様である。

この社会保険労務士本試験解答分析サービス結果の著作権はＴＡＣ（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。

【合格基準補正（いわゆる救済）の可能性について】

●択一式の合格基準補正の可能性

今年の択一式試験については、全科目のうちに極端に平均点が低い科目はなく、いずれの科目についても、補正が行われる可能性は極めて低いと思われる。

●選択式の合格基準補正の可能性

今年の選択式試験については、全科目のうちでもっとも低い平均点である［労一］であっても平均点は3.0点であり、２点以下割合は26.1％と決して高いとはいえない。すべての科目の平均点が３点以上となっているのも補正が行われなかった2007(H19)以来である。

過去の事例を見てみると、2011(H23)においては平均点が低く、かつ、２点以下割合が多い［労一］の補正を行わずに、平均点が高く、かつ、２点以下割合が少ない［基安］［厚年］［国年］が補正されたこともあることから、平均点や２点以下割合のみを基準として補正が行われるとも限らないが、本年は補正が行われる可能性が極めて低い年であると思われる。

＜参考：過去の本試験で２点以下割合の高かったもの…解答分析サービス資料より＞

- 2005(H17)…基安**48％**　→ 基安２点補正
- 2006(H18)…労災**49％**、社一**54％**　→ 労災･社一２点補正(他に基安･雇用･厚年２点)
- 2008(H20)…健保**62％**　→ 健保１点補正(他に国年･厚年２点)
- 2009(H21)…基安**43％**　→ 基安２点補正(他に労災･厚年２点)
- 2010(H22)…国年**58％**、厚年**41％**　→ 国年１点、厚年２点補正(他に社一･健保２点)
- 2011(H23)…労災**51％**、労一**28％**、社一**48％**　→ 労災･社一２点補正(他に基安･厚年･国年２点)
- 2012(H24)…社一**41％**　→ 厚年２点補正
- 2013(H25)…労災**76％**、社一**72％**、健保**64％**　→ 社一１点、労災･健保２点補正(他に雇用２点)

この社会保険労務士本試験解答分析サービス結果の著作権はＴＡＣ（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。

選択式・択一式を加味した総合的な合格基準分析

まずは**本試験結果と解答分析サービスの結果**等について触れていくこととする。

		本試験			解答分析サービス			
	回数	受験者	合格者（a）	合格率	提出者(b)	合格者（c）	※1 (c/b)	※2 (c/a)
2005(H17)	37回	48,120	4,286	8.9%	2,882	1,177	40.8%	27.5%
2006(H18)	38回	46,016	3,925	8.5%	1,940	794	40.9%	20.2%
2007(H19)	39回	45,221	4,801	10.6%	2,605	1,278	49.1%	26.6%
2008(H20)	40回	47,568	3,574	7.5%	2,587	862	33.3%	24.1%
2009(H21)	41回	52,983	4,019	7.6%	2,597	1,043	40.2%	26.0%
2010(H22)	42回	55,445	4,790	8.6%	3,000	1,315	43.8%	27.5%
2011(H23)	43回	53,392	3,855	7.2%	2,671	925	34.6%	24.0%
2012(H24)	44回	51,960	3,650	7.0%	2,521	862	34.2%	23.6%
2013(H25)	45回	49,292	2,666	5.4%	1,885	558	29.6%	20.9%
2014(H26)	**46回**	**？**	**？**	**？**	**2,199**	**？**	**？**	**？**

※１ 解答分析サービス提出者の合格率（c/b）

※２ 本試験合格者のうち、解答分析サービス提出者が占める割合（c/a）

解答分析サービス利用者の合否状況を表に当てはめると上記の通りとなる。解答分析サービスは、本試験全受験者のごく一部が利用するにすぎないが、過去の結果を見ると毎年、ある特定の層の方がこのＴＡＣの解答分析サービスを利用していることが分かる。例えば、ボーダーライン上、又はその前後の得点の方の利用者が圧倒的に多い。

表の※１…2010(H22)までは解答分析サービス登録者のうちおよそ40%前後が合格していたが、合格率を７％台に抑えた2011(H23)、2012(H24)は30%台半ばで推移していた。合格率が5.4%とされた昨年は、29.6%となっている。

このことから、合格率が極端に低かった昨年は例外として、合格率を2012(H23)、2013(H24)よりやや抑えた合格率（６％台）と仮定した上で以下の検証を行い、提出者2,199名の約32%（約700名）の人数が占めることとなるラインを探ることにより合格基準の見当をつけることとした（次ページ参照）。

表の※２…本試験合格者のうち解答分析サービス利用者が占める割合を指す。例年20～28%前後の推移が続いており、例年合格者のうち、「約４分の１」前後はＴＡＣの解答分析サービス利用者が占めていることがわかる。

この社会保険労務士本試験解答分析サービス結果の著作権はＴＡＣ（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。

＜資料＞ **（単位：人）**

	選択式点数及び補正	択一式点数				
		45	46	47	48	49
①	**選択式29／補正なし**	941	886	826	**744**	**656**
②	**選択式29／労一2**	1112	1050	983	888	782
③	**選択式28／補正なし**	941	886	826	**744**	**656**
④	**選択式28／労一2**	1112	1050	983	888	782
⑤	**選択式27／補正なし**	941	886	826	**744**	**656**
⑥	**選択式27／労一2**	1112	1050	983	888	782

※択一式については各科目４点以上として集計

この表から、以下のことが言える。

1． 上記資料より、労一を２点に補正としたときは、合格者数が大きく増加することが考えられるため、補正が行われる可能性は低いと考えられる。

2． P.5で述べたとおり、補正科目が多くなる場合、選択式の総得点基準は引き下げられる傾向を加味し、「補正なし」の場合、選択式の合格ラインは28点基準となる可能性が高い。

3． 選択式の合格基準を28点（補正なし）と仮定した場合、目安となる約700人に近くなるのは、択一式48又は49点ということになる。実施者側が、昨年同様合格率を低く抑えることを考え、６％前後とするのであれば49点が合格基準となり、７％に近い数字とするのであれば48点が合格基準となる可能性が高い。ただし、選択式の合格基準については、択一式の点数に関係なく27点～29点の何れとした場合でも同人数となっている。このことから、本年度の選択式の難易度の影響により、選択式の得点では差がつきにくくなっており、一定の基準に達しているサービス利用者のほとんどが、選択式の総得点29点以上を確保できていることがわかる。

4． 以上のことから、本年度の本試験の特徴としては、選択式の得点では差がつきにくく、択一式の総得点が合否を分ける重要な要素となるものと考えられる。上記資料から考えると、択一式の合格基準は48点又は49点がもっとも有力であり、選択式は補正なしであれば、P.5で述べたように基準である28点となる可能性がもっとも高い。ただし、合格率を昨年前レベルに戻すのであれば、択一式の合格基準点を47点まで引き下げる可能性も十分にある。

合格基準の設定や選択式の補正については、P.6からで触れた通り、補正は単に「平均点が低い」「２点以下の人数が多い」といった科目間のバランスを調整するだけではなく、合格者数や合格率の調整として用いられていることが考えられる。また、択一式の合格基準も実施者側が、昨年と同様に合格率をある程度抑え７％未満とするのであれば高めになり、昨年よりも引き上げるのであれば、逆に低めになることも考えられるが、現状では前記**3．**で述べた合格ラインが有力であると考える。